

決算説明会

2009年3月期第2四半期

2008年10月31日
ミネベア株式会社



1. 業績の説明

2. 方針と戦略

業績の説明

取締役 専務執行役員 加藤木 洋治

2008年10月31日

2



業績の説明は全て連結ベースです。

2Q累計連結業績ハイライト

・為替の悪影響、原材料高、世界景気減速などにより減収減益

(百万円)	2008年3月期	2009年3月期	前年同期比 伸び率	2009年3月期 上半期	
	上半期	上半期		期初計画	達成率
売上高	168,247	150,613	-10.5%	162,000	93.0%
営業利益	15,121	11,698	-22.6%	15,400	76.0%
経常利益	13,236	10,891	-17.7%	14,100	77.2%
税引前利益	12,196	10,102	-17.2%	13,500	74.8%
純利益	7,474	6,205	-17.0%	8,100	76.6%
一株当たり 純利益(円)	18.73	15.55	-17.0%	20.30	76.6%

為替レート	08/3期上半期	09/3期上半期	備考
US\$	119.64円	105.67円	()内はタイ中央銀行発表オンショア・レート。 タイの短期資本流入規制は、2008年3月に撤廃された ため、これ以後、オンショア・レートとオフショア・レート との大きな乖離は存在しなくなりました。
ユーロ	161.83円	163.65円	
タイバーツ	3.77円 (3.47円)	3.22円	
人民元	15.68円	15.25円	

2008年10月31日

3



2009年3月期第2四半期累計の連結業績は、売上高 1,506億1,300万円、営業利益 116億9,800万円、純利益62億500万円となりました。

前年同期に比較して、売上高は10.5%減、営業利益は22.6%減、純利益は17.0%減と、減収減益となりました。また、期初計画へも届きませんでした。

弊社の生産性向上やコスト削減といった内部努力、製品値上げといった施策を上回る規模とスピードで、ドル安等の為替変動、原材料価格の高騰、アジアを中心とした人件費上昇、米国のサブプライムローン問題を契機とする金融市場の混乱とそれに伴う世界景気減速といった悪影響があったためです。

2Q連結業績ハイライト

・1Q比では為替の悪影響が一服し、コスト削減により、増収増益

(百万円)	2008年3月期	2009年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	2Q	1Q	2Q		
売上高	86,481	74,041	76,572	-11.5%	+3.4%
営業利益	8,006	5,083	6,615	-17.4%	+30.1%
経常利益	6,984	4,685	6,206	-11.1%	+32.5%
税引前利益	6,720	4,057	6,044	-10.1%	+49.0%
四半期純利益	4,341	2,635	3,570	-17.7%	+35.5%
一株当たり 四半期純利益(円)	10.88	6.60	8.95	-17.7%	+35.5%

為替レート	08/3期2Q	09/3期1Q	09/3期2Q	備考
US\$	119.42円	103.36円	107.97円	()内は、タイ中央銀行発表オンショア・レート。 タイの短期資本流入規制は、2008年3月に撤廃されたため、これ以後、オンショア・レートとオフショア・レートとの大きな乖離は存在しなくなりました。
ユーロ	162.43円	161.48円	165.81円	
タイバーツ	3.84円 (3.49円)	3.24円	3.20円	
人民元	15.80円	14.72円	15.77円	

2008年10月31日

4



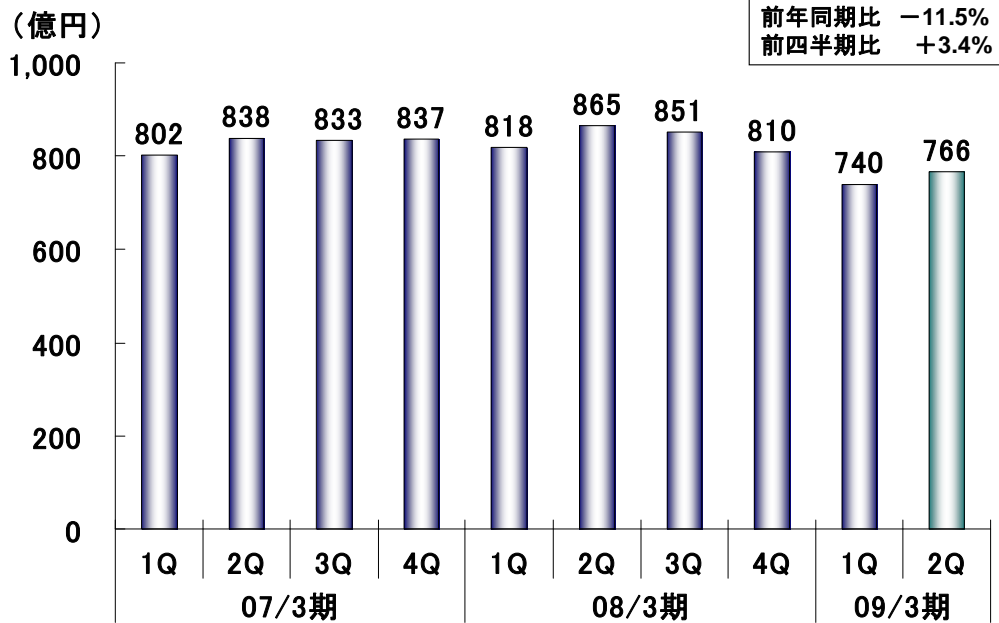
売上高765億7,200万円、営業利益66億1,500万円、純利益35億7,000万円となりました。

前年同期に比べると、売上高は11.5%減、営業利益は17.4%減、純利益は17.7%減と、いずれも減少しております。

一方、第1四半期と比べると、売上高は3.4%増、営業利益は30.1%増、純利益は35.5%増と、いずれも増加しました。これは、第2四半期にはドル安を中心とした為替の悪影響が一服したこと、当初想定よりも需要の伸びが鈍いとはいえ多くの製品が需要期へ入ったことと、事業環境悪化に対抗するための様々なコスト削減施策の効果が現れてきたためです。

四半期推移

売上高



2008年10月31日

5

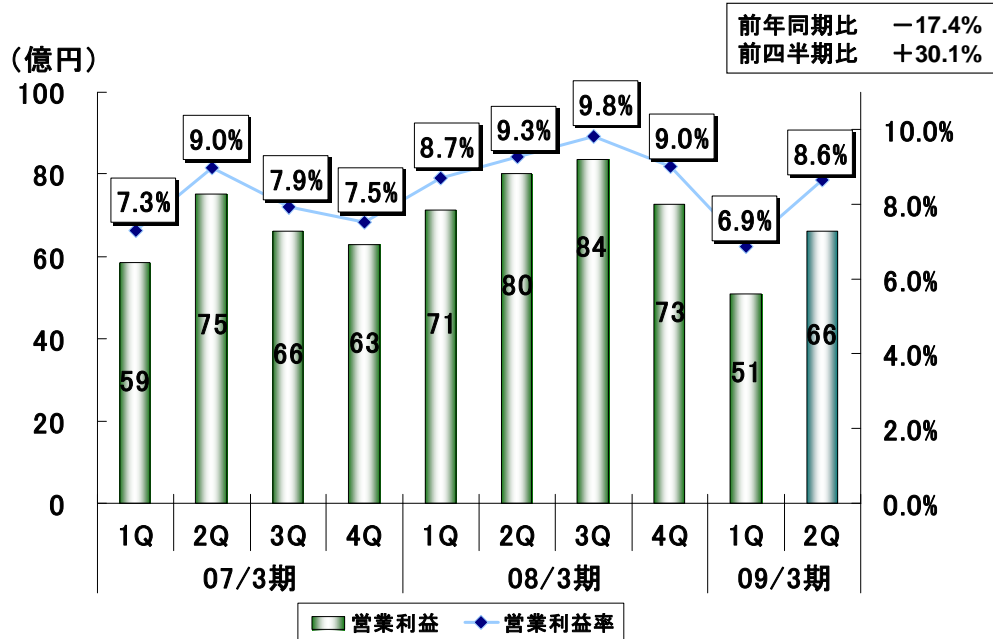


第2四半期の売上は、前年同期比で11.5%の減少、第1四半期比で3.4%増となりました。
売上への為替の影響は、前年同期比で-64億円、第1四半期比で+18億円でした。

第1四半期に比べると、製品では、振動モーターやファンモーター、LEDバックライト、キーボード、ピボットアッセンブリー、計測機器、ボールベアリングなどの売上が増加し、一方、大型液晶テレビ向けのインバーター回路、スピーカーの売上が減少しました。

四半期推移

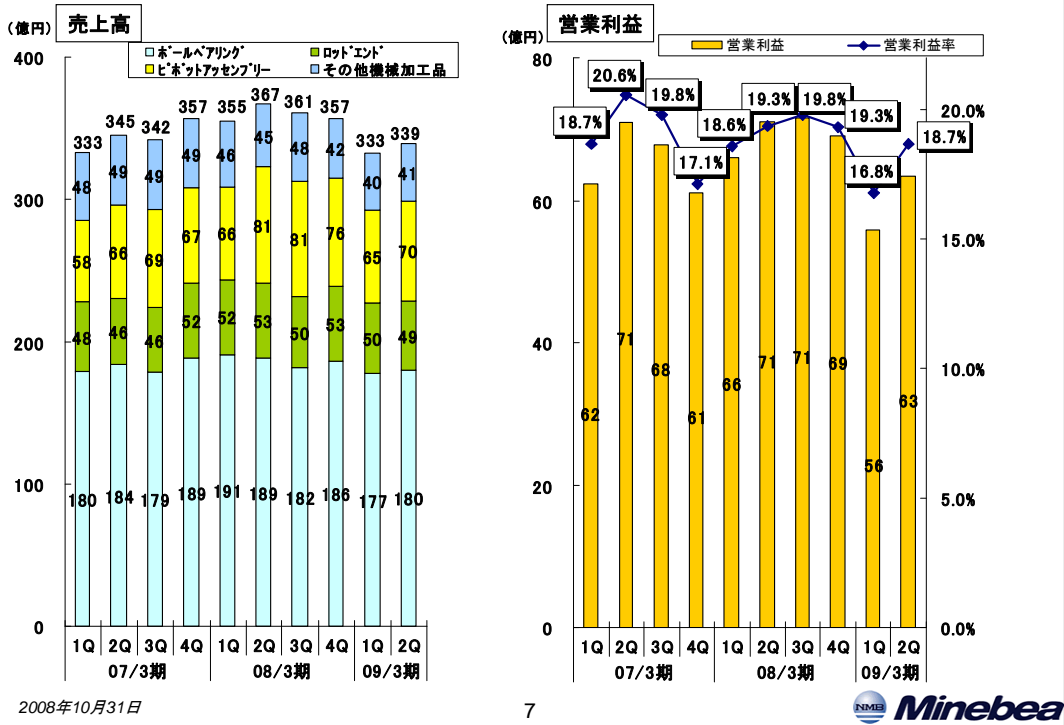
営業利益



第2四半期は第1四半期と比べて30.1%増の66億1,500万円となりました。これは、為替のプラス影響、当初想定よりも需要の伸びが鈍いとはいえ多くの製品が需要期へ入ったこと、世界景気減速という事業環境悪化への対応策として多くの事業においてコスト削減が進んだことによるものです。

為替市場での急激なドル安が一服したことにより、第1四半期と比べて為替の影響は+7億円でした。

セグメント別四半期推移 機械加工品事業



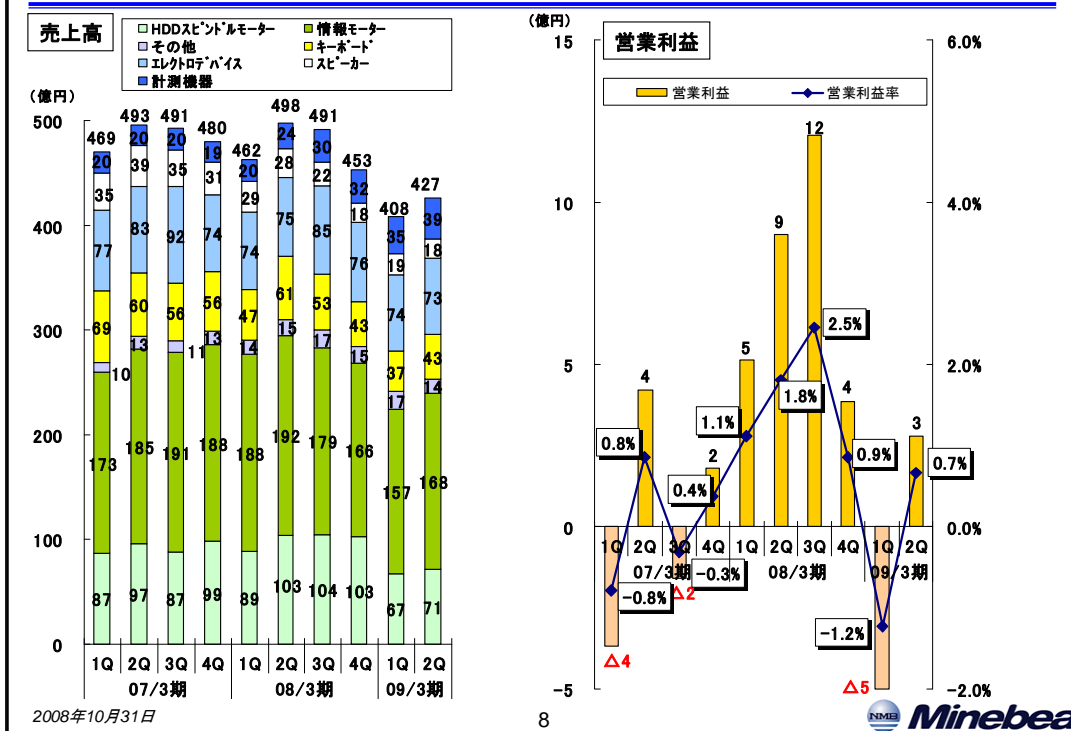
機械加工品セグメントでは、第2四半期の営業利益は63億円3,300万円、営業利益率が18.7%と、第1四半期からはそれぞれ7億5,000万円、1.9%ポイントの増加となりました。

ミニチュア・小径ボールベアリングは、第2四半期の売上高が前年同期比4.7%減、第1四半期比1.2%増となりました。第2四半期における社内使用とあわせた販売数量は平均で月1億9,100万個と、前年同期比では月100万個の増加、第1四半期と比べ月300万個の減少となりました。生産性向上やコスト削減により、第1四半期に比べ利益は増加しました。また、原材料価格高騰に対して7月から取り組んできた製品値上げ交渉は、順調に進展しています。

ロッドエンドは好調な航空機生産を受けて、引き続き堅調に推移しましたが、第2四半期の売上高は前年同期と比べるとドル安による為替の影響が大きく7.2%減、また、第1四半期と比べると欧米の夏休みの影響で1.7%減となりました。一方、利益面では、第1四半期に比べ、コスト削減の進展により増加しました。

ピボットアッセンブリーは、第2四半期の売上高は前年同期比14.0%減、第1四半期比7.0%増となりました。第2四半期の平均販売数量は月2,600万個と第1四半期比微増にとどまりました。例年であれば需要期ですが、今年は第1四半期以降のHDDメーカーの在庫調整が長引いています。利益面では、原材料価格高騰に対して6月から取り組んできた製品値上げとコスト削減により、第1四半期に比べ大きく増加しました。

セグメント別四半期推移 電子機器事業



電子機器セグメントでは、第2四半期の営業利益は2億8,100万円、営業利益率が0.7%と、第1四半期の赤字から黒字転換しました。

スピンドルモーターは、第2四半期の売上高が前年同期比31.0%減、第1四半期比5.9%増となりました。HDDメーカーの在庫調整などの影響により、第2四半期の販売数量は月390万台と、第1四半期に比べて横ばいでしたが、2.5インチHDD用スピンドルモーターの販売は月140万台へ増加し、製品ミックスが改善しました。また、損益分岐点の引下げを目指し、人員見直しを含むコスト構造の改善を行い、歩留まり改善に努めた結果、赤字幅は縮小しました。

情報モーターでは、第2四半期の売上高は前年同期比12.7%減、第1四半期比6.4%増となりました。第1四半期に比べ、ファンモーターや振動モーターでの販売数量増加と、為替のプラス影響により、利益は増加しました。

キーボードは、第2四半期の売上高が前年同期比29.4%減、第1四半期比14.1%増となりました。人民元高、中国での人件費高、原材料高の悪影響はあったものの、ノートブックPC用キーボードの販売が好調で販売数量は増加しており、第1四半期の赤字から脱却しました。

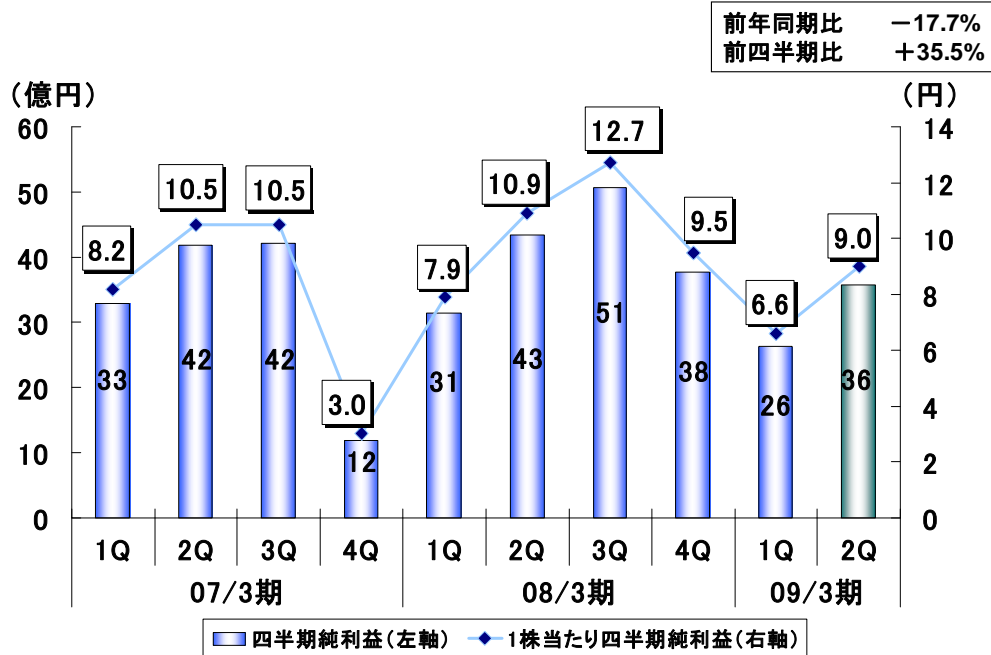
エレクトロデバイスでは、第2四半期の売上高は前年同期比2.4%減、第1四半期比0.6%減となりました。ライティングデバイスが販売数量を伸ばしたものの、一方で大型液晶テレビ市場の停滞により、インバーター回路の販売が減少しました。利益は、ライティングデバイスの増加とコスト削減に努めたため、第1四半期に比べて若干改善しました。

スピーカーでは、第2四半期の売上高は前年同期比34.0%減、第1四半期比5.9%減となりました。コスト構造の改善に向け、9月にタイでの自社生産を終了し、100%外注委託生産へ移行しましたが、当初見込みより遅れたことと、売上の減少により、損失は増加しました。

計測機器は、ゲーム機向けが第1四半期に続き第2四半期も好調で、第2四半期の売上高が前年同期比61.7%増、第1四半期比11.4%増となりました。利益も第1四半期と比べ増加しました。

四半期推移

四半期純利益



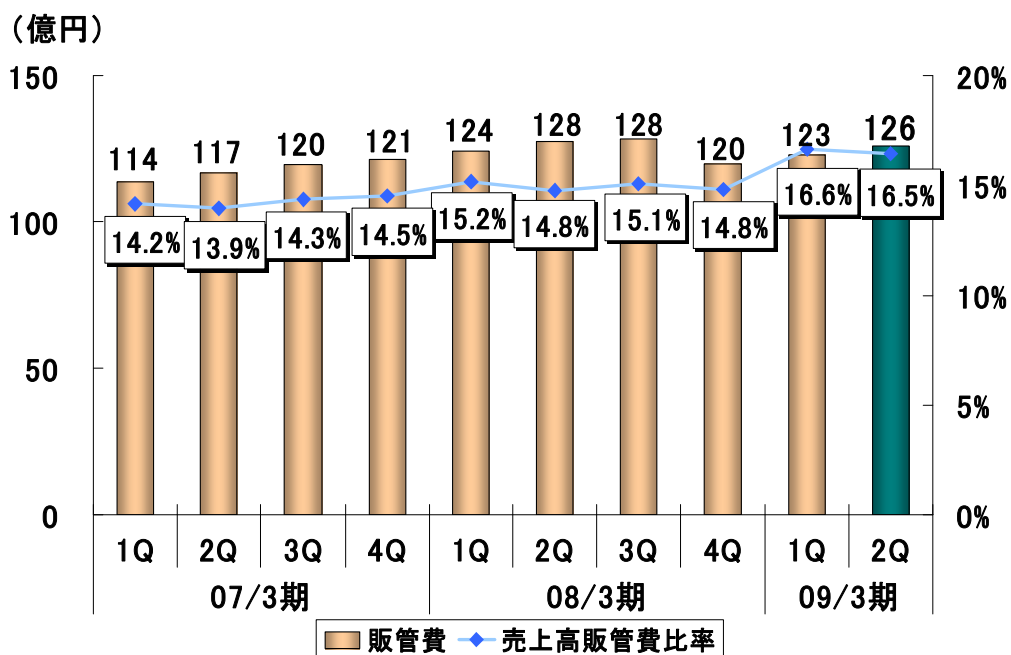
2008年10月31日

9

Minebea

以上の結果、第2四半期の純利益は35億7,000万円、一株当たり9.0円となり、前年同期比17.7%減、第1四半期比35.5%増となりました。

四半期推移 販管費



2008年10月31日

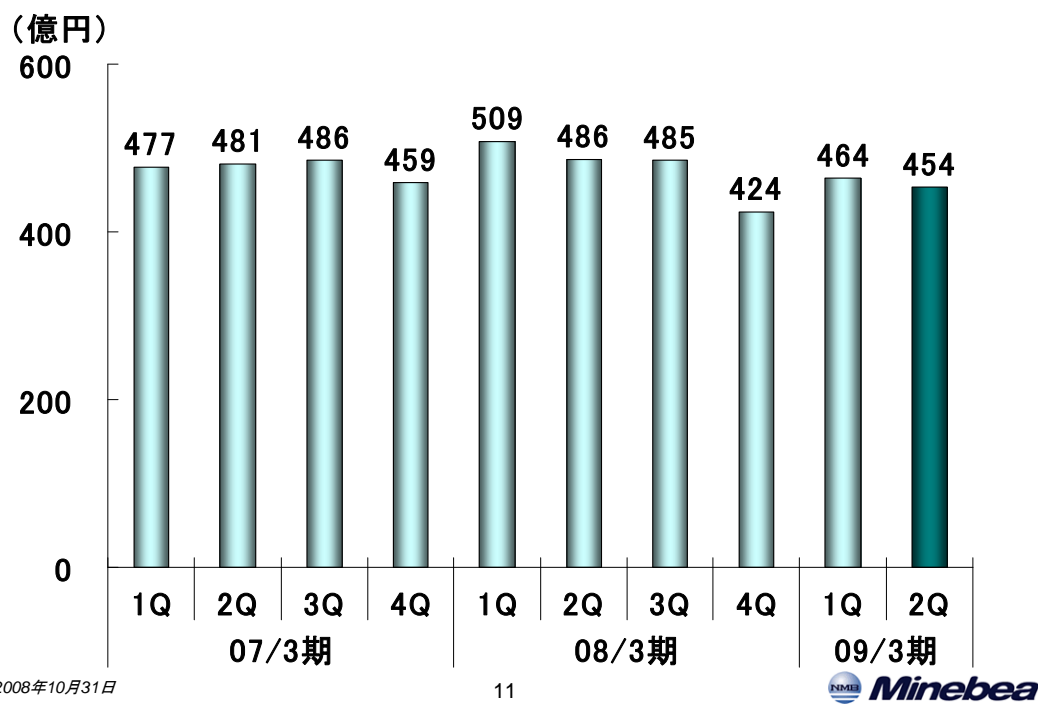
10

Minebea

第2四半期は、第1四半期と比べて3億円増加し、126億円となり、売上高販管費率は16.5%と高止まりしました。為替の影響が+3億円あり、内部統制対応費用の増加などもありましたが、今後とも引き続き、販管費および経費の抑制に努めていきます。

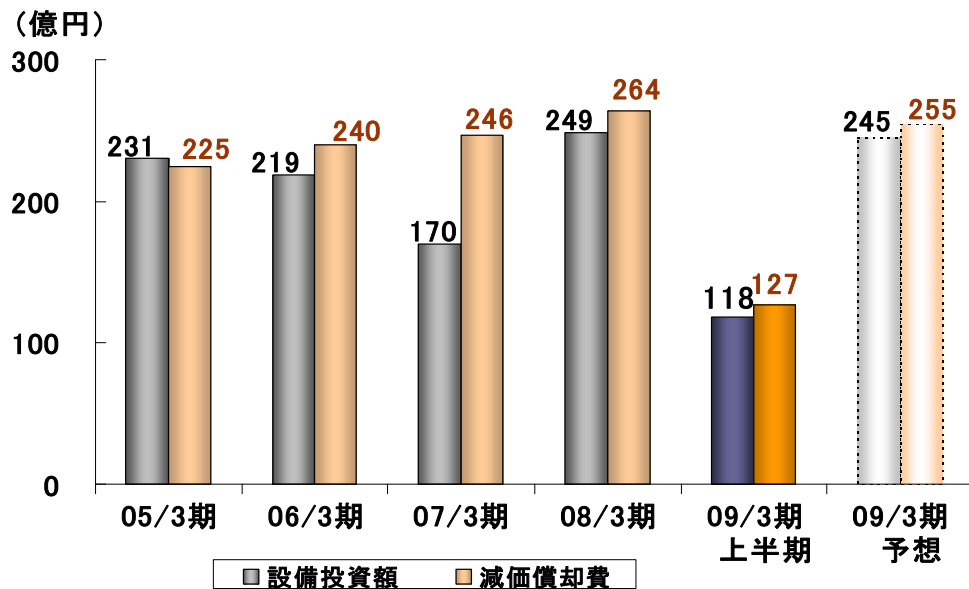
四半期推移

たな卸資産



たな卸資産は、第1四半期と比べて10億円減少しました。経済情勢を踏まえ、今後も在庫削減に取り組んでいきます。

年推移 設備投資額・減価償却費



※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2008年10月31日

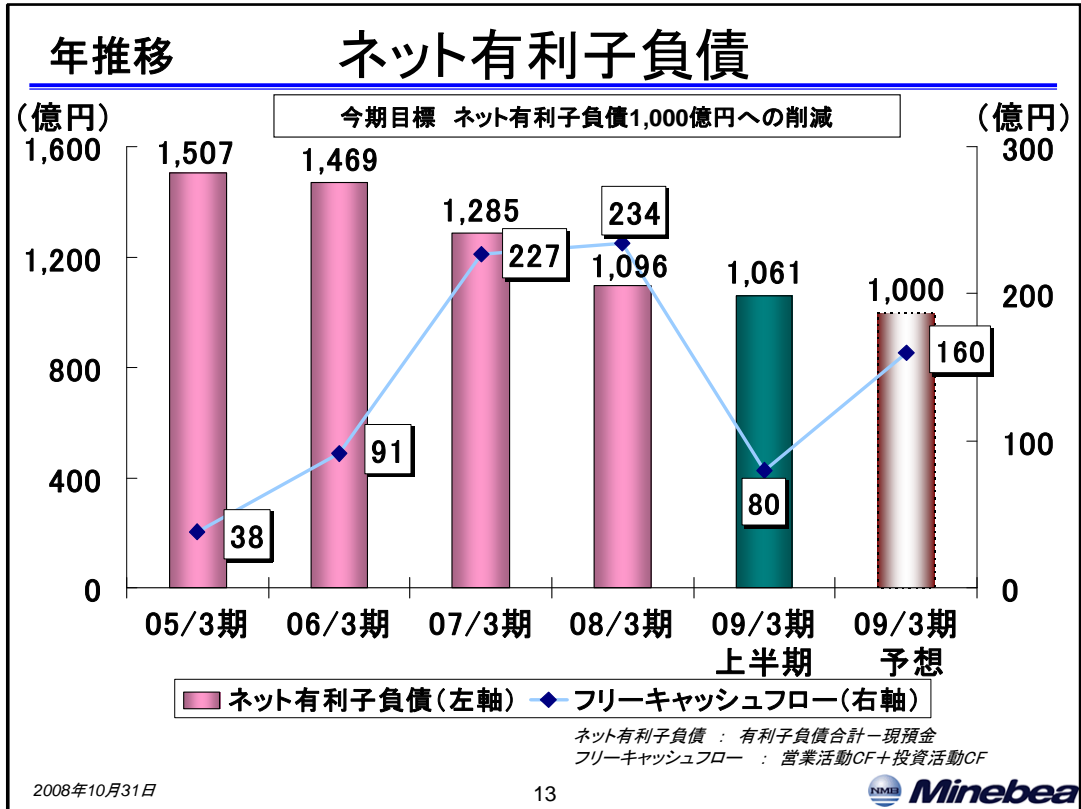
12

Minebea

上半期の設備投資額は、118億円でした。主な投資として、ボールベアリングや航空機部品などの増産投資などがありました。

通期予想は、現在の経済情勢を踏まえ290億円から245億円へ引き下げました。今後の成長に必要な投資は引き続き行っていくものの、不要不急の投資を抑制することによって、投資効率の向上とフリーキャッシュフローの維持を図っていきます。

上半期の減価償却費は、127億円でした。通期予想は、設備投資の抑制、為替見込みの変更などによって、当初見込み268億円から255億円へ減少しています。



このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債の年ごとの推移です。第2四半期末における、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債は減少し、1,061億円となりました。今期末の目標であるネット有利子負債残高1,000億円に向けて、着実に進捗しています。当初見込みに比べ純利益見込みが減少し、また新たに自社株買いの開始、FDKからのステッピングモーター事業譲渡等がありますが、設備投資の抑制などにより、ネット有利子負債の削減を図っていきます。

業績予想

世界景気の減速、為替市場の変動を受け、通期予想を下方修正

(百万円)	2008年3月期		2009年3月期修正予想			従来予想		
	通期	上半期実績	下半期予想	通期予想	前期比	下半期	通期	通期減少額
売上高	334,431	150,613	149,387	300,000	-10.3%	168,000	330,000	-30,000
営業利益	30,762	11,698	13,302	25,000	-18.7%	16,600	32,000	-7,000
機械加工品	27,750	11,916	12,084	24,000	-13.5%	14,300	28,000	-4,000
電子機器	3,012	-218	1,218	1,000	-66.8%	2,300	4,000	-3,000
経常利益	27,691	10,891	12,109	23,000	-16.9%	15,400	29,500	-6,500
税引前利益	25,254	10,102	11,898	22,000	-12.9%	15,000	28,500	-6,500
純利益	16,303	6,205	6,295	12,500	-23.3%	8,900	17,000	-4,500
一株当たり純利益(円)	40.86	15.55	15.78	31.33	-23.3%	22.31	42.61	-11.28

為替レート	08/3期	09/3期上半期	09/3期下半期 想定	09/3期想定	備考
US\$	115.29円	105.67円	105.00円	105.34円	()内はタイ中央銀行発表オンショア・レート。 タイの短期資本流入規制は、2008年3月に撤廃されたため、 これ以後、オンショア・レートとオフショア・レートとの大きな乖離は存在しなくなりました。
ユーロ	162.18円	163.65円	140.00円	151.83円	
タイバーツ	3.70円 (3.39円)	3.22円	3.00円	3.11円	
人民元	15.40円	15.25円	15.00円	15.13円	

2008年10月31日

14

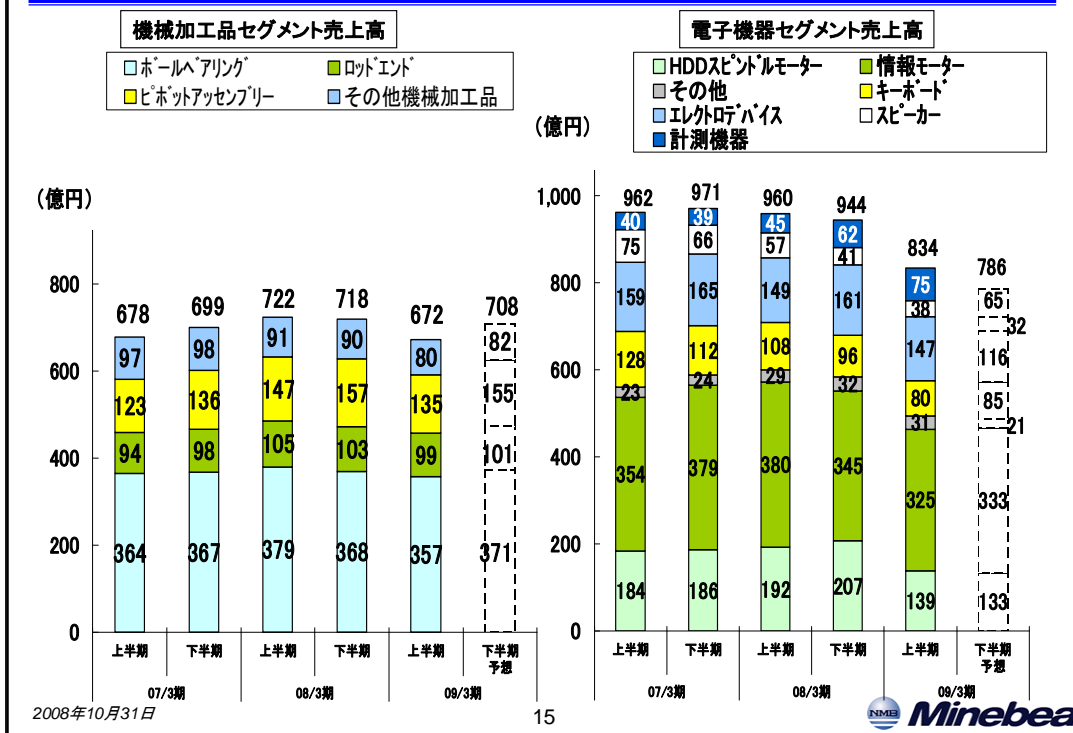


本年5月に期初計画を発表して以降の世界景気の減速、および為替市場の変動などの要因を踏まえ、今期の業績予想を下方修正します。

まず、下半期予想は表の数字となります。これは、当初予想からは下方修正の予想となります。一方、上半期との比較では、売上は若干減少するものの、営業利益では上半期よりも改善できると考えています。その要因は、機械加工品事業を中心に製品値上げの効果を見込んでいること、様々な事業で急速な事業環境悪化に対するコスト削減施策の効果を見込んでいること、個別事業ではHDDスピンドルモーター事業での業績改善が進むと見込んでいること、などによるものです。

その結果、通期は、売上高3,000億円、営業利益250億円、純利益125億円の予想となりました。なお、一株あたり利益31.33円には、本日発表した自社株買いによる分母の減少は織り込んでおりません。

セグメント別売上高予想



これは下半期における二つの事業セグメントの中の個別事業別売上見込みと、過去の実績をグラフにしたものです。

方針と戦略

代表取締役 社長執行役員 山岸 孝行

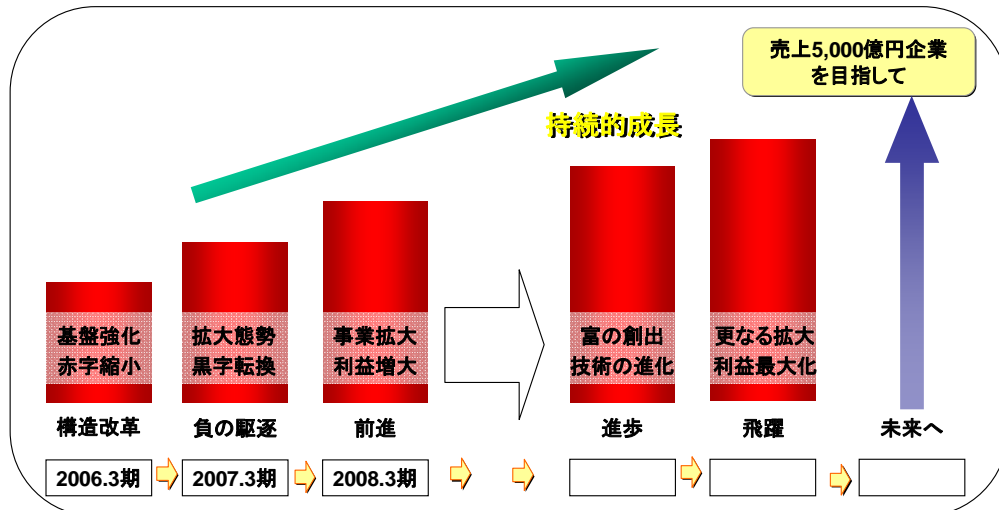
2008年10月31日

16



成長へ向けた基本方針

- ・売上5,000億円を目指す基本方針は変更しない
- ・現在の環境下での時間軸の後退は止むを得ない



2008年10月31日

17

Minebea

国際金融危機から世界同時不況の様相を呈してきている現在の状況は、私共の想定を遙かに超えた未曾有の激変と言えると思います。

そのような中で当社の将来へ向けた取り組みとしては以前より示しております中期計画を含めた、5,000億円企業を目指すという基本方針についてであります。これを達成してゆく時間軸での後退はやむを得ないが、数値目標はあくまでも変えることなく基本方針として持ち続けてゆくことにしています。

悪化する事業環境下での取組み

成長事業への積極投資

事業環境好転時へ向けた施策

- ・ものづくりの効率アップ
- ・省エネルギー化
- ・新製品の開発

弱体事業の体質強化

2008年10月31日

18

 Minebea

事業環境が次第に悪化してゆく中での取組みとして、現在は内部に体力を蓄え、事業環境が好転するときに備えた施策を施してゆくことを第一に考えています。

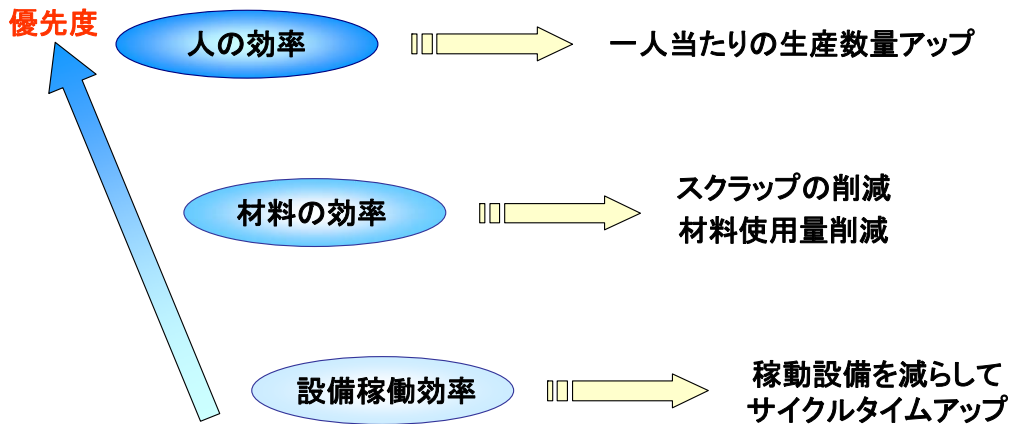
その内容は、ものづくりの効率アップへの取組み、徹底した省エネルギー化への取組み、新製品の開発促進を大きなテーマとしてあげています。

同時に、現在弱体化している事業の体質強化に重点を置き、マイナス部分の壊滅を図るべく取り組んでいます。

一方で、成長事業として捉えています航空機部品事業等は積極的な投資を行っていきます。

ものづくりの効率アップ = 事業環境好転時へ向けた施策 =

どの効率アップを優先させるか
訪れる時へ向けた生産性向上への取組み



2008年10月31日

19

Minebea

ものづくりの効率アップですが、高効率化を目指してゆく中で取り組むべきいくつかの対象があります。

その中でも、人の効率、材料の効率、設備稼働の効率の3点を重点課題として取り上げています。この三つの重点課題への取組みについてもただ満遍なく取り組むのではなく、どれを優先して取り組むのか、その優先度を明確に社内に示し取り組む様になっています。

その中で最優先事項が人の効率になります。これは一人あたりの生産量をいかに上げてゆくかということでもあります。

もう一つの優先事項が材料の効率アップです。原材料の有効重量比率をどれだけ上げられるかという取組みと、スクラップ量をどれだけ減少させるかという取組みになります。原材料の有効重量比率を上げる取組みは、最小単位部品から製造している優位さを生かして徹底した取組みを行っています。特に金属材料、プラスチック材料に重点を置いています。尚、これは次に述べます省資源化(エコロジー)の観点からも重点取組みとしています。

設備稼働率は現在の悪化する環境下では設備の稼働率よりも、一台の機械からのアウトプット量を増やすことに重点を置き、次に訪れるチャンスに備えたいと考えています。

省エネルギー化と省資源化への徹底した取組み ＝ 事業環境好転時へ向けた施策 ＝

省エネルギー工場を目指して

タイでの新工場を実現 ＝ 新たな取組み

- ・工程の集約化とエネルギー効率アップ
- ・電力使用量の4割削減を目指す
- ・切削油の回収効率アップ



ボールベアリング切削専用工場(タイ)

省資源化を目指して

- ・原材料の使用効率アップ
- ・水資源の再利用

2008年10月31日

20



省エネルギー化と省資源化は世界の趨勢である低炭素社会化への取組みと同時に、コストダウンの効果も大きく、積極的な取組みを展開しています。

工場全体を省エネルギー化する取組みを行っております。写真の工場は6月に完成したタイのベアリング工場です。この新工場の最大の特徴は太陽熱高反射塗料を外壁、屋根に塗布することにより屋内の気温上昇を抑え、空調機への負荷を小さくし、使用電力量の削減を図っています。

また、屋内の有効空間体積を小さくし、空調効率を高めた工場であり、電力使用量は従来工場比で40%減を達成しています。

この新工場での成功を更に全工場へ広げてゆく方針で進めています。

この新工場はエネルギー消費量の多い切削工程を集約した工場で、高エネルギー消費工程を集約化することによりエネルギー効率を高める試みです。

省資源化として、多雨地域にあるタイ工場では雨水を集め工場用水として使用する水資源の有効利用も開始しています。

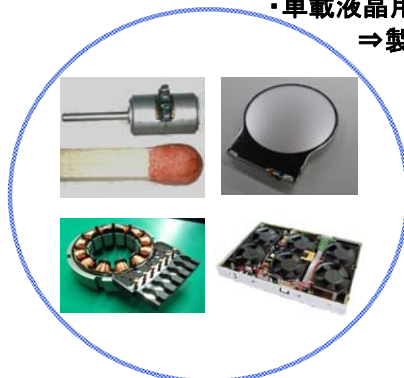
新製品の開発 ＝ 事業環境好転時へ向けた施策 ＝

φ3 ステッピングモーターの事業化

- ・今期中に数十万台/月規模の量産を予定

車載液晶用LEDバックライト

- (燃費計、ギヤシフト表示等のディスプレイ向け)
- ・車載液晶用LEDバックライト市場の成長
⇒製品領域拡大



車載用VRレゾルバ

(電動パワステ用角度センサー)

- ・航空機用部品技術応用製品
- 電動パワステ需要に応じて増産

HMSM

(Heat Management System Module)

- ・今年度下期に市場参入
- ・通信機器向けに積極受注活動展開

2008年10月31日

21



事業環境が好転するときに備え新製品の開発を加速させてゆきます。

既に具体化したいくつかをここに紹介します。

既に開発紹介してあります3mmステッピングモーターはいよいよ事業化が始まります。今期中に月産数十万台規模で量産を開始する予定です。

LEDバックライトでは車載用にカーナビゲーションだけではなくインパネ用にも異形のバックライトも含め事業化が始まり製品領域の拡大を図ります。

また車載用レゾルバもVRレゾルバを電動パワステ用として事業化しています。VRレゾルバは将来性のある製品として事業拡大を積極的に図ってゆくつもりです。

HMSM事業は以前にご紹介しましたが、今年度下期より具体的に生産開始する予定であります。

弱体事業の体質強化 ＝ モーター事業のもう一段の再編 ＝

HDDスピンドルモーターの方向転換

「販売数量400万台/月での利益化を目指す」＝ 今期目標の加速

- ・ 徹底したスリム化による損益分岐点引下げ — 低コストでの自動化
- ・ 一人当たりの生産数量倍増 — 人員削減と歩留まり改善
- ・ 2.5インチHDD用販売比率増加 — 50%以上が目標

ステッピングモーター事業の再編

- ・ ハイブリッドモーターとPMモーターに 旧 FDKモーターを加えた再編
— 組織の再編と市場・技術の融合 —

ミネベア製品
【中大型サイズ】



FDK製品
【小型サイズ】



2008年10月31日

22



弱体事業の体質強化は特にモーター事業の体制強化を図っていきます。

HDDスピンドルモーターは今期中の利益化目指して期初より取り組んでいますが現在赤字の状態からの脱出は出来ていません。当初2.5インチ用の比率を上げることと月産500万台での利益化を目指してきました。2.5インチの比率を上げる点では予定以上に進めることが出来ていますが生産数量月産500万台は頓挫してしまっています。

もう一度方向転換を図ることを余儀なくされ、販売数量400万台をベースとした取り組みに方向転換しました。

その上で固定費の削減を強力に進め徹底したスリム化をかけること、2.5インチへのシフトを加速し50%以上とする事をベースに今期中の単月利益化を図ります。

ステッピングモーターに関しては既にご紹介しましたようにFDK社よりのモーター事業買収が合意に至りましたので、従来のハイブリッドタイプ、PMタイプステッピングモーターにFDKからのモーターを加え、組織の再編を行い、それぞれの技術の融合を図り、シナジー効果を高め、事業拡大を図ります。

成長を続けられる事業への積極投資 ＝ 航空機部品事業での拡大 ＝

ボールベアリング

- ・ チャッツワース工場(U.S.A.)生産能力拡大
中径サイズベアリング用切削・研磨設備を導入
- ・ ピーターボロー工場(U.S.A.)生産能力拡大
航空機エンジン向けローラーベアリング増産設備投資



ロッドエンド

- ・ 軽井沢工場新棟建設(2009年3月完成予定)
生産能力拡大と大型メカパーツ拡大
- ・ ロップリ工場(タイ)で国際特殊工程認証システム(NADCAP)の認証取得
タイにおいても航空機用ステンレスベアリング一貫生産が可能に(2008年5月)

ファスナー

- ・ 藤沢工場にて民間航空機向けファスナー量産体制確立



2008年10月31日

23

Minebea

現在の製品群の中で最も成長が期待できるものが航空機用部品事業であります。

以前から紹介申し上げております様に、航空機用部品の売上は当社総売上の10%を超える規模になっています。航空機用部品はボール・ローラーベアリング、ロッドエンド・スフェリカルベアリング、ファスナーがあります。

アメリカのニューハンプシャーボールベアリング社がエンジン周辺のアプリケーションを中心に生産しています。

市場からの増産要請に応えるべくカリフォルニアの工場を増設し中径サイズのベアリング部品の生産能力拡大を行いました。またニューハンプシャー州の工場ではエンジン周辺に使用されるローラーベアリングの増産設備の投資を行いました。

ロッドエンド・スフェリカルベアリングは軽井沢工場に現在新たな生産工場を建築中で大型のメカパーツとベアリングを組み合わせた複合化製品での拡大を目指しています。

ファスナーは昨年完成した新工場に民間航空機向けのファスナー量産体制を確立し、本下期からの増産に入っています。

新たな財務戦略

財務体質の健全性の維持

- ・近年、増加したフリーキャッシュフローを優先的に負債削減に回してきた結果、ネット有利子負債は中期目標水準である1,000億円を今期末に達成する見込み
- ・今後も財務体質の健全性を維持

M&A

- 「シナジー効果と成長スピードの向上」
- ・FDKステッピングモーター事業譲渡の最終合意

自社株買い

- 「経営環境の変化に対応し、機動的な資本政策を遂行」
- ・自社株買い決議
〔取得株式総額35億円または取得株式総数1,000万株を上限〕
〔取得期間は2008年11月4日から12月16日まで〕

配当

- 「経営環境を総合的に勘案し、業績をより反映した配当水準」
- ・今期より中間配当スタート
(中間配当5円、期末配当予想5円、合計で年間10円配当予想)

2008年10月31日

24



これまでミネベアは、財務体質の強化を目指し、業績改善によって生み出されたフリーキャッシュフローを優先的に負債削減に回していきました。その結果、有利子負債から現金を差し引いたネット有利子負債は、中期目標水準である1,000億円を今期末に達成できる見込みです。今後とも財務体質の健全性を維持していきます。

一方で、今後生み出されてくる資金の有効活用は、M&A、自社株買い、配当といったことが重要となっていきます。

まず、M&Aについてですが、FDK様のステッピングモーター事業譲渡は、本日最終合意に達しました。このようなM&A案件に対しましては、今後ともシナジー効果と成長スピードの向上を狙って、チャンスがあれば積極的に取組んでいきます。

自社株買いにつきましては、本日の取締役会において、弊社としては初めて、取得総額35億円または取得株式1,000万株を上限とする自社株買いの枠を設定いたしました。今後とも、経営環境の変化に対応し、機動的な資本政策を遂行していきます。

配当は、今期は期初見込みどおり、中間配当5円、期末配当予想5円を行う予定です。今後とも、経営環境を総合的に勘案し、業績をより反映した水準での配当を行っていきたいと考えています。

ミネベア株式会社

決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、または現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。

実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2008年10月31日

25

